

Reader's VIEW

2016 Vol.4 特集「今から考えるカリキュラム・マネジメント」へのご意見

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<http://berd.benesse.jp/>) でご覧いただけます。

◎第1特集では、横浜国立大学の高木展郎^{のぶお}名誉教授の課題整理が分かりやすかったです。特に、単元の枠組みで考えることが重要だと感じたので、「單元ごとの学習指導案のフォーマット例」を参考に、本校でも作成してみようと思います。また、「学びのプラン」を配布して「ノートに貼らせる」ことも早速取り入れたいと思いました。(山形県)

◎第1特集で、高木名誉教授が話されていた「地域の特色に根差したカリキュラム」の実現から、本地域の行動目標への具体的示唆をいただきました。中学校区で目指す姿と育成すべき資質・能力の重点化を図り、カリキュラム開発を進めることが、地域に根差し、社会に開かれた教育課程につながると捉えました。(千葉県)

◎第1特集での、新潟県上越市立大手町小学校の、「生活・総合」を核にして6領域に編成した教育課程は、すぐに導入できるものではありませんが、核となる学びをつくり、総合的な成長を促すという理念は、次年度の本校の教育課程編成にも活用できると思いました。(新潟県)

◎第1特集の長野県飯山市教育委員会の、年に2回学力調査を実施してPDCAサイクルを強化するという実践に関心を抱きました。予算さえ確保できれば、年2回実施した方が意味のあるテストになると思います。さらに、Q-Uテストも年2回行うことで、授業の基盤である学級経営状況を客観的に把握できるのもよいと思いました。(熊本県)

◎第1特集の徳島県阿波市立伊沢小学校の実践から、他教科や学校行事と関連つけた英語教育について学びました。コミュニケーションの題材が過去に学んだことや自分たちが取り組む行事だからこそ、子どもたちは本当に伝えたい思いや考えが持てるのだと思います。こうした活動は、小学校教員が得意とするところです。そうした強みを生かし、小学校英語の教科化に臨めればと思います。(岐阜県)

◎第2特集の概論で指摘されていた「振り返りの時間」は、今後、思考力を伸ばす上で重要だと感じました。様々な仕事AIに次々に代替されていく中、なぜ・どのように・ほかにはないか等を考える力を身につけさせることが必要です。日々の授業の中でそうした時間をできるだけ確保することが、我々の責務であると確信しました。(東京都)

◎汎用的な力を育む場合でも、生徒に寄り添い、一人ひとりを見取って育てる必要があります。その意味で、第2特集の大大分県教育委員会の、生徒指導の機能を生かして問題解決的な展開の授業を充実させる取り組みが大変参考になりました。また、生徒減対策として、近隣の学校との合同教科部会を通じた資質・能力の育成や指導案・教材の共有により、多忙化を解消する必要も感じました。(富山県)

◎VIEW'S REPORTの埼玉県三郷市の2つの小学校事例が参考になりました。どこの学校も家庭学習と授業をつなぎながら学力向上を目指していますが、保護者が二極化し、家庭の協力が得られにくいという問題があります。その点、彦成小学校のPTAが主体となって「家庭教育宣言」をつくった取り組みは、とてもよいと思いました。(岐阜県)

◎「ベネッセのデータで見るイマドキの教育」は、キャリア教育の視点で興味深く、特に小・中学生とも「学校の先生」が前回調査より上位だったことが印象的でした。日本の教員は頑張っています。子どもたちがその姿を見て、「なりたい」と思ってくれているとしたらうれしいです。(島根県)

◎現在、小学1年生から「外国語活動」として英語教育を実践していますが、現場の指導は手探り状態です。2018年度の先行実施に向けて今どうすべきかを思案中なので、「5年後の英語教育」が大変参考になりました。ALTの活用の工夫や地域人材の発掘と活用、教育課程の編成などについて、研究を深めていきたいと思っています。(福島県)

編集後記

『VIEW21 教育委員会版』も3年目を迎えました。今年度は特集を1本化し、先生方からのリクエストが多かったアクティブ・ラーニングの授業実践を紹介するコーナーと、学力向上の取り組みをより包括的・長期的に追跡するコーナーを新たに立ち上げました。これからもアンテナ高く、最新の教育動向や様々な自治体の取り組みをご紹介しますとともに、テーマをより深く掘り下げて、分かりやすい解説を心がけていきたいと思っています。引き続きご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。(岡本)

VIEW21 教育委員会版 2017 Vol.1 2017年5月15日発行/通巻第9号

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション
 ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 凸版印刷(株)
 編集協力 (有)ベンダコ
 執筆協力 二宮良太、中丸満
 撮影協力 田中秀和、谷口哲、ヤマグチイッキ

◎お問い合わせ先
 フリーダイヤル 0120-350455
 〒700-8686
 岡山市北区南方3-7-17